

最先端物理学を体感

牛久 栄進高 筑波大教授が出前講座

牛久市東端穴町の県立牛久栄進高校（市村仁校長）で十八日、筑波大教授による出前講座が開かれ、受講した生徒ら百六人が世界最先端の物理学に触れた。

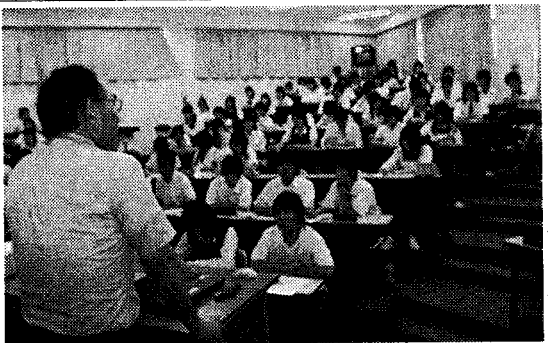
講座は、大学教授らを招いて開かれる「プレ・カレッジ講座」の一環。

今年、ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士生誕百周年に当たることから、同大の記念事業の一つにもなっており、物理学関係の講義が用意された。

この日は、午前が「ビッグバン直後の宇宙の姿」（三明康郎教授）、午後

は「銀河とブラックホール」（中井直正教授）。生徒らは積極的に質問するなど、九十分間の講義を熱心に受講していた。

同校の井坂隆教頭は「最先端科学の講義を実際に感じてもらい、将来につながるものを見つけたい」と受講した生徒らに期待を寄せていた。



大学教授の話に聴き入る生徒たち
— 県立牛久栄進高校

プレ・カレッジ講座

五日まで行われた。

は、県教委が取り組む高大連携推進事業。二〇〇三年から始まり、同校では三年目。物理学以外にも、異文化比較やシステム工学など、県内各大学から教授らが出向き十講義が二十